

## 形成外科学系形成外科学分野

創傷外科のスペシャリスト、それは形成外科医！！

- 傷をきれいに修復する専門医
- 治らない傷を修復する専門医
- 創造外科の専門医

一般形成外科のほかに、重症熱傷の全身管理と局所管理、外傷外科、再建外科、顎顔面外科、創傷治癒、美容など多岐にわたる専門分野の知識と技術の習得が可能である。

後期研修5年目には、日本形成外科専門医が可能であり、その他、日本熱傷学会専門医、日本創傷外科学会専門医などの習得も出来る。

### 特色

座右の銘「獅胆鷹目行以女手：したんようもく、おこなうはじょしゅをもってす」

日本大学医学部形成外科は、平成13年6月、第2外科の「診療科」として、東京女子医科大学形成外科より赴任した佐々木健司教授と1名の専門医でスタートした。その後スタッフを増員し、平成16年4月、「形成外科学講座」として独立した。平成19年4月からは「形成外科学系形成外科学分野」となり、より専門的な教室となった。平成22年7月より、仲沢弘明教授が二代目主任教授として教室を担当し、現在、4名の専任教員と4名の専修医で教室を運営している。

診療内容の特徴として、外科系各科との合同手術において、マイクロサージャリーの技術を応用した再建手術（とくに頭頸部・四肢再建など）に大きな実績を挙げている。さらに先天異常、熱傷、顔面・手の外傷、母斑や皮膚腫瘍などオールラウンドな診療ができる形成外科医の育成を行っている。

### 臨床実績

日本大学医学部形成外科の年間初診患者数は、1513人、年間入院患者数は274人、年間手術件数は597件（入院手術は346件）（2010年1月1日～12月31日）である。耳鼻咽喉科・頭頸部外科、整形外科、皮膚科、外科などとの合同手術における悪性腫瘍切除後の組織欠損に対して、マイクロサージャリーなどの先進技術を用いた遊離組織移植術を行い、患者の良好な機能的・整容的回復を目指した手術を行っている。救急外来における手指切断を中心とした四肢外傷や顔面外傷などに対しても積極的に対応し、地域医療に大きく貢献している。また、近年の若返り医療（anti-aging）を反映して、シミ、ソバカス、

小じわ、老人性色素斑、炎症性色素沈着に対し、トレチノイン（ビタミン A 誘導体）およびハイドロキノン軟膏を用いて治療効果をあげている。

## 後期臨床研修プログラム

### 【目的】

形成外科学に関する基礎的な知識と技術を習得し、実際の臨床に応用できる能力をもつ自立型医師の養成を目指す。初期臨床研修終了後5年間で、日本形成外科学会専門医の取得することを目的とする。

### 【特徴】

年次別研修スケジュールと研修内容

#### 1、2年目

形成外科医としての基本的知識、技術とともに医師として必要な基本的見識と態度を学ぶ。基本的知識、手技：①形成外科の基本手技（切開法、縫合法、植皮術）を修得する。②手術創およびその他の創面の局所管理法を習得する。③救命科と共同での重症熱傷や四肢外傷患者の診療を通して全身管理の基礎と救急医療に対する知識、技能を学ぶ。④マイクロサージャリー（微小血管吻合・神経縫合）の基本手技の習得をおこなう。段階に応じて指導医の下に執刀医となる。

#### 3、4年目

手術研修（段階に応じて指導医の下に執刀医となる。）を主体とした臨床修練を実施し、形成外科の専門的知識、技術の獲得に努める。診療チームの一員として研修医師の直接指導に当たるが、スタッフの指導助言も受ける。指導医の下に外来を担当し臨床経験を積む。当直においても責任者となる。この時期から研究テーマを決め、指導医のもとで研究を進め、学会発表を経験する。また研究成果は論文としてまとめ投稿する。

#### 5年目

チーフレジデントとして、病棟のマネジメントを経験する。

研修プログラムのまとめとして日本形成外科学会専門医取得に向けて準備をおこなう。（専門医試験の準備状況は、教授・准教授ならびに研修協力関連施設長で組織される委員会で随時チェックされる）

### 【備考】

- 1) 指導医は日本形成外科学会専門医である。
- 2) 専門医資格取得には学会会員歴4年以上が必要である。  
※入局後は、日本形成外科学会および日本熱傷学会に入会する。
- 3) 研修病院の選択と研修医師の配置は指導医責任者（主任教授）と研修協力病院形成外科責任者との協議によって決定される。
- 4) 研修内容の公平を期するために大学病院を含め研修協力病院間で異動を行なう。

## 診療体制（附属板橋病院）

- 1) 一般外来：月曜日～土曜日午前（7月・8月は土曜日休診）
- 2) 手術日：月～金曜日（ただし、水、金曜日は外来手術）  
四肢外傷（切断指・肢再接着を含む）、顔面外傷、熱傷などの緊急手術は随時。
- 3) 教授回診：毎週月曜日、准教授回診：毎週金曜日
- 4) 診療グループの回診：毎朝・夕方

## 教育に関する行事

- 1) 年間スケジュール
  - ①形成外科新宿フォーラム（年2回開催、東京女子医科大との合同学術集会）
  - ②日本形成外科学会東京地方会（年4回開催）
  - ③日本熱傷学会関東地方会（年1回開催）
  - ④形成外科夏期講習会（7月・8月、専修医対象：東京女子医科大と合同）
- 2) 週間スケジュール
  - ①週間術前症例検討会（毎週木曜日）
  - ②抄読会（毎週木曜日）
  - ③手術レビュー（毎週木曜日）
  - ④研修医・専修医勉強会（毎週木曜日）

## 研修協力関連施設（日本形成外科学会認定施設・教育関連施設）

### 【大学病院】

- 東京女子医科大学 形成外科（新宿区）
- 東京女子医科大学東医療センター 形成外科（荒川区）
- 東京女子医科大学附属八千代医療センター 形成外科（千葉県八千代市）

### 【公立病院】

- 東京都立広尾病院 形成外科（渋谷区）
- 東京都立多摩総合医療センター 形成外科（府中市）
- 都医療公社豊島病院 形成外科（板橋区）
- 埼玉県立がんセンター 形成外科（埼玉県）
- 独立行政法人国立病院機構 災害医療センター 形成外科（立川市）
- 川口市立医療センター 形成外科（埼玉県川口市）
- 鹿児島市立病院 形成外科（鹿児島県鹿児島市）

### 【民間病院】

- 牛久愛和総合病院 形成外科（茨城県牛久市）
- みつわ台総合病院 形成外科（千葉県千葉市）

## 取得できる専門医

日本形成外科学会専門医、日本熱傷学会専門医、日本創傷外科学会専門医、日本頭蓋顎顔面外科学会専門医など

## 他科研修について

適宜相談

## 留学について

適宜相談

## 育休・産休について

適宜相談

## 勤務および待遇

専修医として形成外科に属し附属病院に勤務  
給与は、日本大学医学部専修医の内規に従って支給される  
健康保険（私学共済）あり。夏期休暇、年末年始休暇あり  
外勤（アルバイト、日勤・当直）可  
研修協力関連施設の勤務時には、各々の施設の勤務規定に従う

## 問い合わせ先

〒173-8610  
東京都板橋区大谷口上町 30-1  
日本大学医学部 形成外科 医局長  
TEL：03-3972-8111、FAX：03-3972-8860  
e-mail：inoue.yoko92@nihon-u.ac.jp  
URL：http://www.med.nihon-u.ac.jp/department/prs/